



「西原自然の森」は大宮台地の東端にあり、縄文時代には海に面していました。



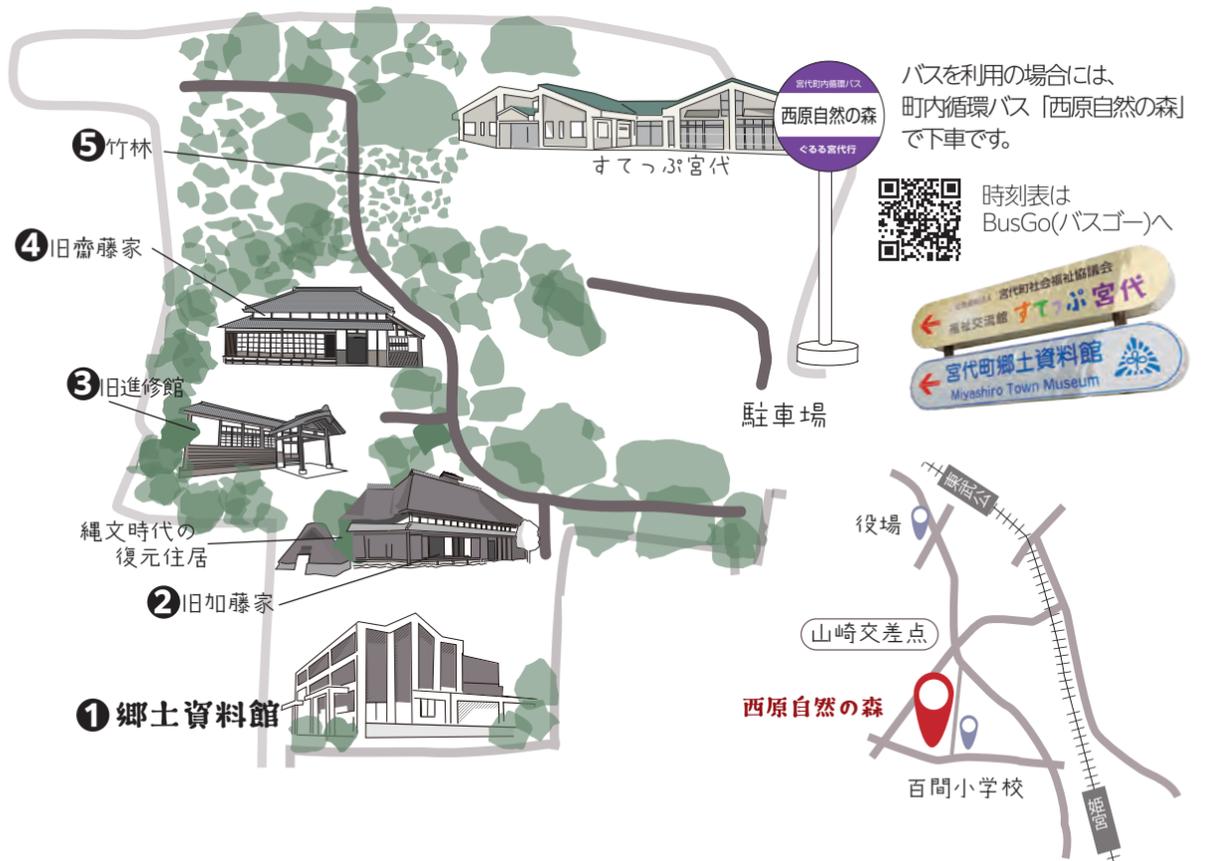
①郷土資料館では郷土資料全般を収集、保存、調査、研究し、展示を行っています。



②旧加藤家で行われたコンサートの様子。演奏は町民の音楽グループ。



③旧進修館 百間小学校は、明治5年の学制発布に伴い翌年に開校した「進修学校」をその前身としています。旧進修館は明治44年に建てられた校舎で、進修学校の名を残すため名づけられました。



バスを利用の場合には、町内循環バス「西原自然の森」で下車です。



時刻表は BusGo(バスゴー)へ



旧家の屋敷だった場所

江戸時代から名主も務めていた齋藤家の屋敷周辺を整備してつくられたのが「西原自然の森」です。

齋藤家の住宅と屋敷林を可能な限りそのまま残し、平成5年に郷土資料館を建設しました。その時、江戸時代に建てられた旧加藤家、百間小学校に残されていた明治44年建築の校舎、旧進修館がここに移され、展示されています。

長い歴史の記憶

ここは大宮から広がる「大宮台地」の東の端にあたります。縄文時代には海(現在の東京湾)に接していました。「森のめぐみ」だけ

西原自然の森をめぐる小さな旅

ではなく、「海のめぐみ」を求めて人々が住んでいた場所です。敷地からは地蔵院遺跡が発掘されています。

この場所から内海が一望できたと考えるだけで想像力をかきたてられます。

新たな発見を求めて

「西原自然の森」に足を踏み入れれば、ケヤキ、カシ、ツバキ、ヒバなどの木々が季節ごとに色を変え、建物をやさしく包み込みます。

今年は整備されて30年。新たな発見を求めて「小さな旅」を試みませんか。歴史を思いながら、静かな時を過ごすことができます。



④旧齋藤家 明治時代に建てられたと伝えられる母屋を中心として、蔵や物置(米蔵)があり、農家の屋敷配置をそのままに残しています。写真は旧齋藤家で昨年12月に「駄菓子屋」を開店した時の様子(昨年実施した西原自然の森フェスタのイベント)。今年度の西原自然の森フェスタは13pをご覧ください。



⑤竹林（孟宗竹） 保存展示されている建物が屋敷林の木々と一体化しているのが魅力の一つですね、と市民ガイドクラブ代表の千葉さん。

歩いて歴史を再発見

町を案内する市民グループ

「みやしろ市民ガイドクラブ」は町を案内する観光ボランティア団体です。メンバーは20名ほどで、町内外の皆さんに、宮代町を知ってもらうための活動をしています。

普段の活動では参加者と町を歩きながら、お寺や神社、教会、史跡、建築物などを案内します。笠原小学校の郷土学習では「掘上田・ほつつけ」を案内し、江戸時代の新田開発の歴史なども説明しました。

屋敷林は貴重な歴史の記憶

「西原自然の森」は市民ガイドクラブで案内することが多い場所だと、代表の千葉さんはいいます。

郷土資料館や移築された民家、屋敷林の中を参加者と歩くと、孟宗

竹（もうそうちく）の竹林では、「まるで京都にでもいるみたい」と言われるそうです。

屋敷林にある木々は、防風林としての役割はもちろん、農業や、新しい家屋を建てるための建築材としても使われてきました。近年では失われつつある屋敷林が「西原自然の森」には残っているのです。

郷土資料館で歴史を学ぶ

郷土資料館内にはさまざまな資料が展示され、定期的に企画展や特別展も開催されます。ここでは旧石器時代から現代にいたる町の歴史を知ることができます。

「見るたびに新しい発見があり、好きな場所ですよ」千葉さんは、そう語ってくれました。



①郷土資料館 発掘された縄文土器、国指定重要文化財の西光院「阿弥陀如来三尊像」(複製)や円空仏、笠原沼新田開発の様子や、夏目漱石から町の偉人英文学者島村盛助にあてたハガキの展示など、町の歴史や人々の暮らしを知ることができます。

令和5年度特別展 古代のみやしろ ～古墳時代の宮代町～



郷土資料館は今年で開館30年の節目を迎えます。節目となる今回の特別展では、古墳時代に焦点をあて、当時の“みやしろ”は、どのような様相であったのか、また、他の地域とどのようなつながりがあったのかについて取り上げます。

この時代を特徴づける、山崎山遺跡・姫宮神社遺跡・道仏遺跡の3遺跡について紹介するとともに、近隣市町や県外の貴重な借用資料を展示して皆様のお越しをお待ちしております。



〈記事ID 21982〉

※写真は
朝顔形埴輪
(姫宮神社遺跡
から出土)

開催期間 10月28日(土)～12月24日(日)
開館時間 9時30分～16時30分
期間中の休館日 毎週月曜日
11月7日(火)、24日(金)は休館

問 郷土資料館 34・8882



②旧加藤家 旧加藤家住宅は宮代町本田（旧蓮谷村）の加藤家より移築・復原（ふくげん）されたものです。加藤家は江戸時代初期から明治初頭まで代々蓮谷村の名主を務めていました。写真は昨年12月に市民ガイドクラブが川端地区の皆さんを案内した時のもの。



郷土資料館では開館から30年間、継続して夏休み体験講座を開催しています。写真は、7月、8月に行われた「土器づくり教室」の様子。左上は土器の成形、右上は焼き上がった土器。